

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年1月26日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況 (暫定値) (令和6年数値は1月1日からの同期間数値)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	7	0	1	5	3	9
令和6年	15	4	0	4	9	17
前年同期比	-8	-4	1	1	-6	-8

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	3	42.9%	0	0	2	3
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	3	42.9%	0	0	2	3	5
中央アルプス	1	14.3%	0	0	1	0	1
南アルプス	1	14.3%	0	0	1	0	1
八ヶ岳連峰	0	0.0%	0	0	0	0	0
その他の山岳	2	28.6%	0	1	1	0	2
計	7		0	1	5	3	9

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	0	0.0%	0	0	0	0	0
転倒	5	71.4%	0	0	5	0	5
病気	0	0.0%	0	0	0	0	0
道迷い	1	14.3%	0	0	0	3	3
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	0	0.0%	0	0	0	0	0
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	0	0.0%	0	0	0	0	0
不明・他	1	14.3%	0	1	0	0	1
計	7		0	1	5	3	9

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
20代	0	0	0	3	3		0	0	0	0	0		3	
30代	0	1	1	0	2	62.5%	0	0	0	0	0	0.0%	2	55.6%
40代	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	3
50代	0	0	1	0	1	25.0%	0	0	1	0	1	100.0%	2	33.3%
60代	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
70以上	0	0	0	0	0	12.5%	0	0	0	0	0	0.0%	0	11.1%
計	0	1	4	3	8		0	0	1	0	1		9	
比率	88.9%						11.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（1/20～1/26）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
1月26日	北アルプス 白馬乗鞍岳	男	39	負傷	転倒	2人パーティで、天狗原を滑走中、転倒、負傷
						上記遭難現場の写真
1月26日	北安曇郡小谷村 黒川沢付近	男	45	負傷	転倒	10人パーティで、黒川沢を滑走中、転倒して立木衝突に衝突し、負傷
						上記遭難現場の写真
1月26日	中央アルプス 千畳敷	男	50	負傷	転倒	2人パーティで、八丁坂付近を下山中、転倒、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、3件の山岳遭難があり、うち2件はバックカントリー遭難でした。
バックカントリーエリアは、非圧雪のパウダースノーが楽しめる一方、目には見えないリスクが多数潜んでいます。

○ 過去に発生したバックカントリー中の遭難

- ・ 雪崩に巻き込まれる（自然発生、自身や仲間の誘発）
- ・ 地図やGPSを所持しておらず、道迷い
- ・ 他者のシュプールを頼ってしまい、道迷い
- ・ クライミングスキンやスノーシューを持っておらず、登り返しができなくなり、行動不能
- ・ 滑走中に転倒し、靭帯や腰の負傷により、行動不能
- ・ 悪天候により（ホワイトアウト）行動不能
- ・ 悪天候により低体温症
- ・ 沢や崖への転落（水没）
- ・ 新雪に埋没し、窒息
- ・ 立木や岩へ衝突し、骨折
- ・ 転倒してスキーが外れて紛失し、行動不能

バックカントリーは、ゲレンデのように管理されおらず、アクシデントが発生してもスキーパトロールの方が救助に来てくれる訳ではありません。

そのために、アクシデントに対応できる知識・技術・装備が必要で、スキー場と同じような感覚での滑走は、致命的な遭難に直結します。事前に天候や積雪の状況、滑走ルートの確認をするほか、携行する装備品をチェックし、安全を最優先とした行動、判断をお願いします。